１２月３日「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

２０２０年１２月３日
京 都 学 ・ 歴 彩 館
０７５－７２３－４８３５

京都学・歴彩館では、学びの楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度１２月３日（木）に「鴨川の渡河と橋」と題して開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　２０２０年 １２月３日　木曜日１３：３０～１４：３０

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 １階大ホール

■ 参加者数　　１３５名

■ 内　　容　　講師　　京都府立京都学・歴彩館　館長　金田　章裕
「鴨川の渡河と橋」

■ 講座の様子

洛中から洛東へ向かう。その時、我々の眼前に広がるのが鴨川である。現在、我々が目にする鴨川の流れは、昭和１０年の大水害後に整備された姿ではあるが、流れる河道は平安京以前からほぼ現在の位置であった。歴史上、京都に暮らした人々は洛中から洛東地域へ向かう際、どのように鴨川を渡ったのか。鴨川を渡る橋といえば、四条大橋や五条大橋を想像するだろう。もちろん平安時代においても欄干があり、橋を守護する橋守が置かれた橋もあったが、人々は必ずしもそのような立派な橋を渡ったわけではなかった。摂関院政期、鴨川の東、白河一帯には摂関家の別業や六勝寺が建立されるが、白河へと続く平安京二条大路付近に橋があったという史料は知られない。『年中行事絵巻』には、川を騎乗で渡る人物や衣服の裾をからげ、川を渡っている様子も描かれている。

本講座では、京都に暮らした人々、渡河風景について、日記資料や絵画資料を用いて、分かりやすく説明があった。

京都に住む人々にとってなじみ深い鴨川がテーマであったこともあり、多くの人々の来場を得て、好評を博した。